

# サイエンスコミュニケーション

## 品種改良とゲノム編集技術

ゲノム編集技術は、狙った遺伝子を意図的に変化させることにより、品種改良のスピードを速めたり、従来では困難であった品種を開発できるものとして期待されている育種技術です。この技術を用いた研究開発が国内で取り組まれています。

### サイエンスコミュニケーションとは？

科学のおもしろさや科学技術をめぐる課題を人々へ伝え、ともに考え、意識を高めることを目指した活動です。

この企画ではゲノム編集の農業分野での利用について、分かりやすく解説します。専門の研究者だけでなく、文系の方も含めご関心のある方の幅広い参加をお待ちしています。

日時：2023年1月26日（木） 14:00-15:30

場所：香川大学農学部キャンパス DS304教室

内容： 1.農業の現状と品種改良  
2.ゲノム編集技術のルール  
3.ゲノム編集技術による品種開発



### 【講師】

高原学氏（農研機構 企画戦略本部 新技術対策課 課長）

東京大学大学院・生物科学専攻（植物学）で博士課程を修了し、博士（理学）を取得。飼料作物の遺伝子やゲノム編集に関する研究を担当した後、現在ではゲノム編集に関するコミュニケーションやELSI活動にも取り組んでいる。

森山力氏（農研機構 企画戦略本部 新技術対策課 規制実験管理チーム）

明治大学・農学部を卒業後、農林水産省農林水産技術会議事務局に入省し、ゲノム編集等の最新バイオテクノロジーの調査を行う。現在は農研機構にて、遺伝子組換えや動物実験等の審査の補佐や海外におけるゲノム編集の開発物や規制の動向調査、ウェブサイトでの情報発信を行っている。